

平成24年3月9日

# 南の風

南部ミニバスケットボール連盟  
会長 藤原 敬一

新人戦の最終日が2月26日(日)に小田小学校の体育館で行われました。男子の優勝が六つ川、女子が永田台という結果でした。両チームの選手の皆さん、スタッフ、保護者会の皆様、おめでとうございます。新人戦が終わり、南部連盟のすべての行事が恙無く終了しました。選手の皆さん、役員、保護者会、関係者の皆様、1年間本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

さて、前の号でゾーンディフェンスのことについて触れました。「ミニバスにゾーンは必要ないのでは」という意見があります。その理由として、ミニバスの時期は基本となるマンツーマンをしっかり教えるべきだというものです。一理あります。ただ私は、組織(連盟や協会)がルール(この場合、戦略、戦術と考えることにする)を規定することは、ミニバスといえども競技の発展、向上を妨げるものだと考えます。また、年度により学年に格差のあるチームはゾーンをせざるを得ないという状況もあるでしょう。組織が細かい規則や規約で縛りを入れると必ずその組織は衰退します。やはり、自由な発想の元に連盟やチームが技術の追求を行ってほしいものです。嘗て、ミニバスには「ゾーン禁止」という負の時代がありました。それぞれのチームも混乱しましたが、審判も混乱しました。どういう状態をゾーンと見なすのか、ゾーンプレスとマンツーマンのプレスの違いなどを見分けるにたいへん苦労した記憶があります。

こう書いてくると、私がゾーン礼賛者のように感じるかもしれませんが決してそうではありません。マンツーマンがディフェンスの基本であることは揺るぎない事実です。できることなら、ミニバスケットボールの選手にはマンツーマンディフェンスを指導すべきだと考えます。

ここでゾーンディフェンスの基本を述べてみます。前号でも紹介しましたように、ゾーンにはノーマルゾーンとマッチアップゾーンがあります。繰り返しますがノーマルゾーンは、ボールを中心に守ります。トライアングルを作りながらボールマンからのパスのカットを狙います。ギャップを攻められた時は、チェックバック(シヨウ気味にチェック)で対応します。ドライブに対しては、ヘルプ&ローテで対応し場合によっては、ラン&ジャンプのように動きます。一方マッチアップゾーンは、地域を守りながらその地域に入ったオフェンスにマッチアップして守ります。両ゾーンとも、地域と地域のギャップをどう守るかのコミュニケーションがたいへん重要になります。指導者としては、ノーマルゾーンとマッチアップゾーンの違いを理解して指導することが大切です。来年度、機会があればディフェンスに関わる講習会(座学でもよいかなとも思います)を技術委員会主催で開催できればと思っています。

最後になりますが、東日本大震災から1年が経とうとしています。改めましてお亡くなりになられた方々に、謹んで哀悼の意を表しますと共に、被災されました皆様の一日も早い復興を心より願っております。テレビや新聞の報道を見ますと、いまだに復興は進んでいるとはいえません。地震、津波の爪痕は深く残り、原発の問題も遅々として進んでいないのが現状です。我々横浜市民は、被災者の方を含め、東北、関東の皆様のお役に立てることを継続してやっていこうではありませんか。